東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

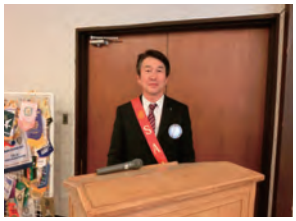
国際ロータリー
テーマ

奉仕を通じて
平和を

Vol.46　第2262回例会　2013.5.16

今年度会長テーマ　和で輪を広げ、前に進もう

■司会：
清水例会運営委員



■点鐘：中丸会長

■合唱：ロータリーソング
「日も風も星も」

◆ソングリーダー：
野澤会員

■お客様紹介：
町田パスト会長

◆ゲスト：卓話者
青梅ＲＣ　金井国俊様

■会長報告　中丸会長

皆様こんにちは。青梅ＲＣの金井様ようこそおいで下さいました。50周年記念式典が間近に控えお忙しい中、卓話をお引き受け頂き有難うございます。卓話楽しみにしていますので宜しくお願い致します。6月8日には当クラブの歩こう会で御岳山を訪れますので、その節は宜しくお願い致します。

さて、皆様昨日と一昨日の炉辺会合ご苦労様でした。私は一昨日に参加致しましたが野村次年度会長の方針のもと、会員の皆様から活発な意見が出され実りある炉辺会合だったと思います。野村さんはソフトな話し方ですが、次年度会長として確固たる考えがありますので皆様ご協力をお願い致します。そしてより良い奉仕活動と親睦に務めるように致しましょう。

本日は赤木幹事が税理士会の業務でお休みです。2週連続の休みとなりますが何かと総会等忙しい季節ですので、ご容赦のほどお願い致します。

最後になりますが21日に立川のパレスホテルで開催される青梅ＲＣ50周年記念式典についてご連絡致します。当日はバス等の準備はありません。交通の便も良い所ですので現地集合で各自お集まり下さい。

■幹事報告　石山副幹事

■東京秋川ロータリークラブ：
創立40周年式典のお礼状の受理

■米山奨学委員会：
・2014学年度米山記念奨学生選考：大学説明会の案内の受理
2013年6月21日（金）　15:00～
於　ハイアットリージェンシー東京

・米山奨学生及びカウンセラーオリエンテーション参加のお礼状と写真について

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／石山　敬
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500　FAX　042-395-1166

・米山梅吉記念館親睦日帰りバスツアーの案内の受理
2013年7月20日(土)　7:45集合
新宿駅西口～米山梅吉記念館

■東村山緑を守る市民協議会：
緑を守る市民協議会平成25年度第4回全体幹事会について
5月21日(火)　18:30～
於　市民センター

■東村山青年会議所：
第32回わんぱく相撲東村山場所の案内の受理
2013年5月19日(日)　8:00～
於　八坂神社境内

■回覧：
ロータリー補助金ニュース
ハイライトよねやま
東京小平ＲＣ会報

■出席報告　戸澤例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
31	23	0	5	82.14

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：1名
■前々回出席率メークアップ修正後：96.55%
■前々会メークアップ者：
赤木会員：分区連絡会
石山会員：地区協議会
田中会員：理事会
漆原会員：東大和ＲＣ

■ニコニコＢＯＸ　山宮クラブ管理会員

■皆出席：
金子会員(12回目)

◆金 井 様：どうぞよろしくお願い致します。
◆中丸会長、赤木幹事：
金井さん、本日はようこそおいで下さいました。卓話よろしくお願い致します。来る21日の50周年記念式典を楽しみにしておりますので宜しくお願い申し上げます。
◆樺澤会員：金井様、お話を楽しみにしています。お陰様で私、この5月で結婚55年となり二人で155歳となりました。
◆野澤会員：金井さん、東村山へようこそ。私も御嶽山には色々ご縁があります。今日の卓話楽しみにしています。一昨夜の炉辺会合欠席しました。清瀬ＲＣで卓話をしてきました。北久保さんありがとうございました。
◆當麻会員：本日の卓話楽しみにしています。恩多稲荷神社の御岳講ではお世話になっています。
◆相羽会員：金井先生、本日はお忙しい中卓話をお願いさせて頂いてありがとうございます。楽しみにしておりました。
◆小町会員：いつも御嶽の四季を楽しませて頂いています。本日の卓話楽しみにしていましたが所用で早退します。6月の歩こう会でお会いできるのを楽しみにしています。
◆目時会員：金井さん、その節は大変お世話になりありがとうございました。

本日のニコニコ合計：　49,000円
累　　計　：1,250,100円

■委員長報告

■野村次年度会長

皆様こんにちは。昨日、一昨日と炉辺会合にお集まり頂き、大変ありがとうございました。貴重なご意見をたくさん頂戴しましたので、これからの予算編成に向けて参考にしていきたいと思います。先ではありますが、これから1年、皆様のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

■野澤会員

皆さん、こんにちは。金井さん、ようこそ。私の親父の名前を大きく書いた碑が立っているのをご存知ですか。随分前になりますが、御嶽講の廻田上と廻田下という講がありまして、同じ廻田だから合併しようと

いうことで合併したときに、金山神社の社寺委員長をやっていらしたんですね。かなり反対派もいて、喧々諤々と論議したのですが、うちの親父も負けん気が強くて、言い出したら絶対にやる、ということでやり通しちゃったんです。そのおかげで、永久に残る記念碑が建っちました。

一昨日は、炉辺会合を欠席いたしまして失礼致しました。清瀬ロータリーに話をしてほしいと呼ばれ、伺いました。私共クラブの次年度会員増強委員長も参考にして頂きたいと思いますが、やはり会員が激減しておりますので、新入会員の為の「清瀬塾」を3回に分けて開催しております。1回目は先週の森原大先輩の話、2回目は一昨日、私が担当し、3回目の来週は、下井さんが担当してやるそうです。

なぜ、こういうことをやったかと市川会長に聞きましたら、なんと田無けやきＲＣが田無ＲＣと合併したほうがいいという意見が一部あるらしいのです。これを誰が言っているかというと、吉田次年度ガバナーが言っているらしいのです。これには多くのメンバーが憤慨していて、「吉田さんと亡くなった指田さん二人が、けやきロータリーを作ったんじゃないか！その本人が来年ガバナーをやるのに合併した方がいいなんて、とんでもない！」と怒っていました。私の話のタイトル「ロータリー運動とは」の下に、小さく(清瀬ロータリー合併)と書いてあるんです。「こんなこと誰がいったんですか」と聞いたら、市川会長が「このままで行くと東村山に吸収合併されちゃうという悲壮感から、ちょっとメモしたんですよ。」と言ったところ、下井さんに怒られていましたが。

そういうことで3回に分けてシリーズでやっておりました。私たちも他人事ではありませんので、次年度増強委員長は参考にして、また新入会員を増やしていこうではありませんか。よろしくお願いします。

■３分間スピーチ

■発表者紹介：野澤会員

では、今日の3分間スピーチは清水会員です。よろしくお願い致します。

■清水会員

私は自動車修理業を営んでおります。自動車修理には、板金、塗装、エンジン類を直すメカニック等に分類しますが、私が得意なのは板金塗装、特に板金です。

大概の工場は板金屋さん、塗装屋さん、メカニックと分業されていますが、清水自動車では全員なんでもこなします(全員と言っても4人しかいませんが)。専門家することも良いと思いますが、板金屋さんとかメカニックではなく、広い意味での車を直す人、トータルカーライフのお世話を、というコンセプトで、盆と正月、ゴールデンウィーク以外休まず営業しています。

仕事を始めて10年程経った頃、「俺は誰にも負けない、日本一の車屋だ」といきがった時期がありましたが、今思えば全然下手くそで、かわいそうなくらいでした。あれから20年近く、技術向上を目指して努力し続けてきたので、今の自分は本物かな、誰にも負けないとはいいませんが、そこそこいけているんじゃないかな、と思っています。ほとんど休まず、夜中までやっていれば、誰だってうまくなれますよね。最近は、少し自分の時間を持てるようになり、板金の技術向上よりも、ゴルフの技術向上を優先している次第です。

そして私は、今ここに居ます。仕事一本で生きてきた人間が、作業服ではなく、ネクタイをしています。無理に誘われた訳ではありません。むしろ感謝しています。1年後の自分がどう変わっていることやら、奉仕よりゴルフが上手くなりたいです。とりとめのない話でしたが、以上です。

■激励の言葉：中丸会長

清水さんとは、ロータリーでお会いする前に、連盟のゴルフ、また、昔、青葉会と久米川会でのマッチプレーの対抗戦(チームマッチ)で初めて知り合いました。見ての通りの好青年で、ゴルフも大変お上手です。いい方がロータリーに入っていただいたな、と心から思っております。今後ともよろしくお願い致します。

■卓話

■卓話者紹介：
相羽プログラム委員長

本日の卓話は金井先生にお願いしたいと思います。大変お忙しい中、快諾して頂き感謝申し上げます。金井先生に卓話をお願いしようと思ったのは、当会の3回目の歩こう会で御嶽山に行くことになり、私がその幹事を仰せつかったのですが、せっかく御嶽山に行くのだったら金井先生のいらっしゃる所なので卓話をお願いしてから歩いたほうがいろいろと楽しみが増えるのではないか、という思いからお願いさせて頂きました。

皆さんのお手元に、先生にお持ち頂いた3枚のポストカードがありますが、これらの国宝や重要文化も歩こう会の時に金井先生がご案内して頂けるということで、本当にありがとうございます。食事なども、金井先生のところでさせて頂く事になっております。また野澤先生から、2月に掲載された御岳山に関する記事の新聞のコピーを頂きました。今日も歩こう会の案内を回さ

せて頂きますが、決して無理なコースではないということも金井先生に聞いておりますし、時間もたっぷりありますので、ゆっくり回れると思います。ぜひ大勢の方に参加して頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

■卓話者：
青梅ＲＣパスト会長
武蔵御嶽神社宮司
金井国俊様

皆さん、こんにちは。たくさんのニコニコを出して頂いて、大変恐縮です。この2週間程、青梅ＲＣは50周年に向けて、てんやわんやでございまして、毎日どこかに集まって何かやっているという状態で、21日に向けて準備をしている最中です。それにつけても、当クラブからもたくさんの方にお越し頂けるということで、総勢280名程の方がお集まり頂けるようでございます。私の話はどうでもいいから、パスト会長としてお礼だけ、ちゃんと言ってきてくれということを実行委員長から言われてきましたので、まずお礼を申し上げたいと思います。あとは余興でございますので、どうぞ子守唄と思って聞いて頂きたい、上手い話を聞くということは、いびきをかくことだそうでございます。小澤征爾という指揮者が、他の人の音楽会で音楽を聴くのですが、いい音楽になるとその場で寝てしまうそうで、目を覚まして聞いている間はその話がろくな話じゃないということみたいです。ご遠慮なさらず、お休みいただけますようお願い申し上げます。

東村山の皆様方とはかなり親しい間柄で、このロータリーでも目時さんがガバナー補佐のときに私は会長を町田さんと一緒にやらせて頂いて、また、町田さんとは幹事も同期でございまして、よく「いちまつ」で飲んだことを覚えております。身内のロータリークラブのようです。

御嶽山とこの地域のつながりは、かなり深いものがあります。3枚のポストカードを配らせていただきましたが、1枚は「赤糸威大鎧」(国宝)、もう1枚は「紫裾濃大鎧」(重要文化財)、もう1枚は「円文螺鈿鏡鞍」(国宝)、その他にも重要文化財があと2点、さらにいろんなものがありますので御嶽にお見えになった時にはご案内したいと思います。

国宝の「円文螺鈿鏡鞍」と「赤糸威大鎧」この二つは実物をそのまま今でも一年中飾っております。本来は傷むので、ぶらさげて飾っておいてはいけないのですが、しまう場所がないので飾ったままになっております。本当の飾り方は下に並べておかねばいけないそうです。例えば、厳島神社の「小桜威大鎧」などは、ほとんどしまいっぱなしで、1年間で1日か2日しか見せません。その方がむしろ入場料がとれるんですね。私も少し考えようと思っています。

では、そういう文化財が御嶽山に集まった理由はなんなのか、というのが一つ大問題でありまして、レジメに載せたように、御嶽という言葉自体の問題でございます。例えば、木曽の御嶽(おんたけ)、あれも御嶽で、「おんたけ」というようになったのは、江戸の終わりに下山応助という浅草の商人が御嶽教(おんたけきょう)というのを立ち上げて、そこで木曽の御嶽にお参りをする人たちの宗派をまとめ上げ、御嶽町ができて御嶽山(おんたけさん)というようになったのですが、本来は御嶽(みたけ)です。富士山も本来は御嶽で、五合目に小御嶽神社というものがあり、それは中腹だから小御嶽で、頂上は御嶽なんです。他にもたくさんあり、九州の開聞岳や吉野の金峯山も御嶽、沖縄には御嶽(うたき)というのもあります。また屋久島には、それぞれの集落に対しての外輪山の尖ったところを御嶽とお互いに言っていて、御嶽はあちこちにあります。

では御嶽とはなんでしょう。神酒(みき)、神輿(みこし)、神田(みた)など、神は「み」と読みます。御嶽(みたけ)とは神の山ということです。私共の住んでいる御嶽が神山というにふさわしい理由は何かと言うと、その下に多摩川が流れていて、多摩川の上流から流れ出る魂の川だから魂川(たまがわ)といいます。だからたまがわもあちこちにあり、「たま」というのはもともと大和言葉なので漢字はいろいろ充てられますが、もともとは魂にあたります。ここの多摩川は調布の多摩川(玉川)といいますが、六玉川と言って、野田の玉川、井手の玉川など、有名な玉川が六つ程あります。タマガワホトトギスという有名な花がありますが、京都の玉川で発見されたのでそういう名前がつきました。つまり、魂川に対する信仰そのものが古くからあり、そこに信仰が集まり、重要なものが奉納されたということです。

私はお酒はあまり飲めないのですが、**～澤乃井は御嶽の御酒ぞ盃に琥珀に映りて酔ひのほろほろ～**という北原白秋の詠んだ歌があります。澤乃井というお酒は小澤酒造というところで造っていますが、小澤家はもともと武田家の家臣で落人だったそうです。元禄になると落人だと名乗っても首は切られずに済んだんだそうで、元禄時代になって小澤を名乗って、しかも埋蔵金を持っていたものですからそれを利用して酒蔵を始めたのです。酒蔵を始めるには、どういう目的でお酒をつくるのかという許可が必要なので、「御嶽山の神酒をつくります」と江戸の政府に申請し、許可が下りて酒を造りはじめたのが澤乃井なんです。

澤乃井が毎年3月にお酒を仕込むのですが、その仕込んだお酒を最初に飲むのが御岳山の神主という役得でございます。3月に呼ばれていって、最初の口火を切るお酒を御嶽神社の神主が飲まないとお酒を売らないということで、小澤酒造もそのあたりは非常に几帳面でして、ごちそうになって酔いもほろほろで帰ってきます。

また本来、神社は東か南を向いているものですが、大国魂神社というのは北を向いているのです。北を向かざるを得なかった、なぜかというと、多摩川をご神体にしているからです。地形上、反対の南も向けず、また、多摩川をご神体としているから大国魂(おおくにたま)神社というのです。

つまり、多摩川が流れている一番上流にある御嶽に対する信仰は強いものがあって、時間的にはいつ頃から信仰の対象になったかは分かりませんが、万葉集の東歌に**～多麻川に晒す手作りさらさらに何ぞこの娘のここだ哀しき～**というものがあり、この時代からすでに多摩川という存在があって、その上流に御嶽という存在があったということは間違いないだろうと思います。ただ、建物はいつ頃からあったかは分かりませんが、時々工事をしますと、境内から布目瓦という瓦が出てきます。それは大仏で有名な東大寺を造ったときに使われた時代の瓦です。つまり、平安の中期頃までは使われていたものですが、それが残っているということは、平安の中期頃にその瓦を使った建物が御嶽山の頂上に存在していた、という証になると思います。

御嶽山は神仏混淆ですから、神主とお坊さんとは信仰体系を習合しておりますが、むしろ鎌倉時代あたりは世尊寺というお寺のお坊さんの力が強く、神主はその下にいたと思われます。御嶽神社という名前がつい

たのは明治になってからで、それまでは金峯山御嶽蔵王権現というのが本来、千年の歴史を持った名前であります。鎌倉時代になると、幕府が五千石を御嶽山に寄贈しております。例えば、元寇の役で元が攻めてきたときに、慌てふためいてあちこちの神社に剣を奉納し、戦勝祈願をするんです。全国の神社にばらまいたのですが、この近辺では大国魂神社と御嶽神社にしか残っていません。御嶽神社に残っているということは、鎌倉幕府の信仰が強かったということだと思います。

最近おもしろい説が出まして、「武蔵」という国と「相模」という国はもともと一つの国だったのではないかと。昔の古地図で相模と武蔵をくっつけてみると丁度、御嶽山がど真ん中です。相模と言う国には御嶽という山はないんです。武蔵と相模の両方の国の御嶽が、われわれの御嶽だったのではないか、という説です。その証拠は、「むさし」と「さがみ」という言葉を二つ並べて見て頂くと、共通点があります。「むさがみ(上)」「むさしも(下)」つまり、武蔵という国は上と下だった、だから相模には御嶽がなかった、本来は相模の御嶽も御嶽山だったものですから、鎌倉幕府の祈願が御嶽神社で行われたということが考えられます。

もう一つは、御嶽山の世尊寺というお寺に仏像が安置されていたのですが、その仏像の開眼供養の時に、鎌倉の極楽寺からお坊さんが御嶽山に登ってきたという歴史的な事実もあります。こんなことで、鎌倉とは縁が深く、信仰を集めた山だったということで、今は東村山の皆様のおかげで信仰が集まっております。

「円文螺鈿鏡鞍」「紫裾濃大鎧」「渡金長覆輪太刀」「赤糸威大鎧」「宝寿丸太刀」の五つが国宝だったのですが、昭和27年にＧＨＱが日本みたいな敗戦国にそんな国宝があるのはおかしいということで、国宝を10分の1に減らしたのです。ですから「赤糸威大鎧」も明治32年に国宝に指定され、あらためて昭和27年にまた国宝に指定され、と二重に指定されているわけですが、「渡金長覆輪太刀」「紫裾濃大鎧」「宝寿丸太刀」は重要文化財に格下げになってしまっています。

「赤糸威大鎧」というのは、東の赤糸、西の小桜と言われ、御嶽神社の赤糸威と西の厳島神社の小桜威、これは日本の二大鎧です。でも御嶽神社の赤糸威の方がはるかに優秀です。なぜかというと、「小桜威大鎧」はほとんどが後世に作られたものだからです。戦国時代に泥棒に会い、金具を全部むしりとられてしまって、金具の部分はその後に全部作り変えて今の小桜威があるのですが、これは平家の一門が奉納したものです。それに対し、御嶽神社の「赤糸威大鎧」は山の中ですから、泥棒に入られなかったし、火事にも一回も会っていないのでそのままの姿で残っています。同時に、御嶽神社は神仏混淆ということで、坊さんと神主が両方いて山の上で同じところで同じ生活をして、同じ信者を抱えており、お互いあまり仲良くないわけですが、どういうわけか、すべての国宝はご本殿の中にしまわれておりました。ご本殿は大きなお祭りの時などには「オー」という声が2回かかり、最初の「オー」で外の扉を開けて、2回目の「オー」で中の扉を開けることになっています。扉が2つあるわけですが、中の扉の鍵は神主が持っていて、外の扉の鍵は坊さんが持っていた、つまりめったに開けられない、閉まりっぱなしのご本殿だったんです。そのため、昔の形のまま残ったというわけです。

おもしろい話があって、八代将軍吉宗は優秀な武具の研究家で、どうしても御嶽神社の「赤糸威大鎧」がどうしても見たい、金20両渡すから持ってきてくれと言ったそうです。国宝、ある意味、ご神体ですから、万が一橋から落ちた場合は大変なことになるので、馬が何匹一緒に歩いても平気かどうか、途中の橋なども幕府の命令で点検してもらい、大丈夫なことが分かってから、馬で行列を作って江戸城まで運んだわけです。享保12年に一度運び、もう一度見たいということで、今度は鎧だけ19年に運んでいます。二度目に持って行った時に吉宗が「前と比べるとだいぶ傷みが激しくなっています。本来は補修をした方がいいのだけれど、変に補修をすると昔の形を留めないで変えてしまうので、補修はしない、その代り箱を作ってその中に納めて返すから、大事に保管しなさい。」という手紙と、葵の御紋のついた箱が今でも残っています。吉宗は昔のままを残そうと手を出さなかったのですが、明治政府がその後、直したのです。染料も日本の染料では危ないということで、ドイツから取り寄せた染料で糸を作り直したのですが、作り直した糸は全部色あせて変色してしまいました。昔からの茜で染めた赤い部分は見事な赤色でそれがいまだに残っており、ぜひそれは実物を見て頂きたいと思います。

川越の大河内さんという方が、茜で染める研究をしておりまして、赤糸威大鎧と同じ絹、同じ染料で染め直すことを始めています。絹糸を茜で染めるには、だいたい10回染めないとこのような赤い糸にならない、ぼやけるんですね。また、染めるたびに砧で叩いて中に染み込ませて茜を染めていくのですが、普通の繭から作った絹糸は、途中で全部切れてしまうのです。では、どうするかというと山繭(自然の繭)を使って絹を作って茜で染めないとできないということで、今、6回まで染めました。その方は、6回まで染めた茜を皇后陛下に献上したところ、皇后陛下から丁重な手紙が来たそうです。本にして出そうかと考えているようですが、それほど大変なことで、それだけ染めないと千年もたないのです。ドイツから取り寄せたとはいえ、化学染料ですから、たちまち百年で色が変わってしまうのです。

実は、御嶽神社のお祭りにだけ、「赤糸威大鎧」と「紫裾濃大鎧」は、出して着て歩いていたのですが、吉宗が大事に保存せよ、というものですから出すわけにはいかなくなったので、今は兜だけ出して行列に参加しております。「渡金長覆輪太刀」は徳川家康の奉納とされているのですが、本当はもっと古いもので、時代は鎌倉のものらしいのですが、吉宗のところに刀も一緒に持って行って、それが戻ってきたあとに吉宗から手紙が来て、「刀の中身の寸法を測りそこなったから、ぜひ測って、手紙で教えてください。」というものでした。御嶽神社は「この刀は抜かずの太刀と申しまして、家康公以来、一度も抜いたことがございません。いくら将軍の御命令でも抜いて寸法を測るわけにはいきません。」と返事を出さなかったそうです。これも実物を見て頂きたいのですが、「渡金長覆輪太刀」は刃に角度があります。出して研ぐと丸くなってしまうのですが、昔の形のままピンと残っているのは抜かないからなのです。

また「赤糸威大鎧」ですが、吉宗から「すね当てがない、あるはずだからよく探してまた見せてくれないか。」という手紙が来ました。ところが当神社には、昔からそういうものはありませんでしたので、そう書いて手紙を送りました。吉宗といえども、その時代の大鎧の研究の成果からいえば当然すね当てがあったはずだった、というのが当時の常識だったのですが、今の大鎧の研究者はすね当てがない方が正式なのだといいます。国宝として、しまいっぱなしで置いてあるものですから、昔のままで残っていた。だから神主は何をするべきなのか、神主は何もしてはいけない、というのが結論だそうです。じっと我慢をして、何もしないのが一番いいというのが神主だそうで、私は典型的な神主でございます。

最後に一つ申し上げますが、来年、私はプログラム

委員長でございまして、バーター契約で8月以降になりましたら、東村山の方に青梅に来て頂いて卓話をお願いしたいと今から願っております。まずは野澤さんに来て頂こうと思っております。本日はありがとうございました。

■25年4月出席表

	氏　　名	4	11	18	25		
名	細渕　一男						
1	相羽　　正	○	○	○	○		100
2	赤木　盛一	○	△	○	△		100
3	飯田　能士	○	○	○	○		100
4	石山　　敬	○	○	○	△		100
5	樺澤　　襄	○	○	○	○		100
6	金子　哲男	○	○	○	○		100
7	小町　幸生	○	○	○	○		100
8	村田　秀雄	○	○				50
9	中條　基成		○		○		50
10	中丸　繁男	○	○	○	○		100
11	野村　高章	○	○	○	○		100
12	野村　裕夫	○	○	○	○		100
13	野崎　一重	△	△	△	○		100
14	野澤　秀夫	○	○	○	○		100
15	荻野　　昇	○	○	○	○		100
16	嶋田　憲三	○	○	○	○		100
17	清水　啓量	入会式	○		○		75
18	田中　重義	○	○	○	△		100
19	當麻　　誠	○	△	○	○		100
20	戸澤　　忠	○	○	○	○		100
21	漆原　次男	○	○	△	△		100
22	山宮　　隆	○	○	○	○		100
23	山本　智治	○	○	○	○		100
24	北久保隆一			入会式	○		100
公式平均		96.30	100	89.66	96.55		95.63
出席規定適用免除者							
1	隅屋　宜一	○	○	○	○		100
2	五十嵐光利	○	○	○	○		100
3	神崎　　武						
4	高橋　　眞						
5	村越　政光	○	○	○	○		100
6	町田　清二	○	○	○	○		100
7	目時　俊一			○	○		

名：名誉会員　　○：出席　　△：メークアップ

■点鐘：中丸会長